

**答**

SDGsへの貢献度については、プレリーに実装されているSDGsメーターを活用し、利用者がさまざまなSDGs活動に参加することにより、メーターが上がるしくみとなっている。

メーターの目標値としては、SDGsの3側面の分野ごとに17のゴールに関連した地域課題として、合計96項目を抽出し、各項目の緊急度、重要度、関係者数などを勘案し、メーター指標値(目標値)を設定している。

環境面の課題19項目に対しては88万指標、社会面の課題51項目に対しては2千290万指標、経済面の課題21項目に対しては85万指標を設定しており、3側面全てに関連する5項目に対しては48万指標を設定している。更に、本市独自の分野として、地域消費に対して50万指標を設定し、合計で5千万指標となっている。

達成時期については、「持続可能都市西条2050」の実現に向け取組を推進することとしており、2050年と設定している。また、SDGsメーターと連動した事業は、令和4年度

は35事業であったが、令和5年度は93事業と増加しており、少しづつではあるが取組の成果が表れていると考えている。

こうした状況の中、SDGsメーターの存在を認知されていない市民も多くいるほか、メーターと連動した取組についても、じゅうぶんな数が用意できていないという事実もあり、SDGsへの貢献度が低迷していることは、大きな課題であると認識している。

今後は、各種イベントなどにおいてSDGsメーターの存在やしきみを積極的に発信することで認知度向上を図るとともに、SDGsに積極的に取り組まれている各種団体などに対し、西条市SDGs推進協議会からも積極的にコンタクトし連携することで、より多くの活動がメーターと連動した取組として案内できるように努めていきたい。



アクションSDGsカード

**塩崎 雄 大議員**



(一般質問)

- 1 就学前教育について
- 2 医療的ケア児について

**幼児期からの英語教育、ICT教育を!**

**問**

グローバルイングリックシュスクール事業により、9月から外国語指導助手の増員の下、小学校3年生から中学校3年生までの児童・生徒を対象に、英語の授業が充実化されている。英語は話せてあたりまえという時代が近づいており、県外では幼児から、遊びや触れ合いの中で外国語に慣れ親しむ教育が実施されている。幼い時期から英語耳を育てる機会を広げ子どもの可能性を高める必要があると考える。

また、本市の小学校におけるICT教育は、ほかの地域

**答**

英語教育については、学習指導要領の改訂により、令和2年度から全国の小学校3年生以上で本格的に外国語活動及び外国語の授業がスタートした。また、ICT教育については、文部科学省が進めるGIGAスクール構想に基づき、令和2年度から、学校への通信環境の整備が行われ、学びの充実に活用されている。

現在、本市の公立幼稚園、保育所、認定こども園において、英語教育やICT教育を教育課程や保育の計画に位置付けて取り組んでいるところはないが、市内の私立幼稚園、保育園、認定こども園では、特色ある取組として取り入れ

に先駆けて導入され全国的にも評価を受けたが、英語教育と同様、幼児期からの触れ合いが後の教育に有効だと考えられる。これからは学力と並行して多様性が重要とされ、社会に順応することが必要になる。本市発展に寄与する人材育成のため、幼児期からの英語教育、ICT教育を取り入れる考えはないのか。

ているところもある。

英語教育、ICT教育ともに、早い段階から慣れ親しむことは一定のメリットが期待できると考えられるが、発達段階に応じた教育の提供の観点から、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領には具体的な実施についての言及がないものと認識している。

英語教育やICT教育について、現時点では、幼児期に取り入れる予定はないが、前述の教育要領や指針などの改訂、また国や県、他市の動向を注視したいと考えている。



9月に着任した外国語指導助手